



一般社団法人 愛媛県中小企業診断士協会 〒790-0003 松山市三番町 4-8-7 第 5 越智会計ビル 1 F
 発行人：会長 上田 保 TEL：089-961-1640 URL：http://shindan-ehime.com
 編集：広報委員会 E-mail：shinai@shindan-ehime.com

目次

◆会長挨拶（上田保）	1
◆日本経営管理協会黒澤賞論文で奨励賞を受賞して（山本久美）	2
◆ひとつの区切り（今福慈）	3
◆診断士を通じての振り返りとこれからへの思い（絹笠直樹）	4
◆ご挨拶と事業内容の紹介（大西正志）	5
◆19年で浦島太郎になった私（小玉和史）	6
◆お知らせ（事務局）	7



会長挨拶

会長 上田 保

平成から令和へと新時代への幕開けとなりましたが、経営環境も第4次産業革命で大きく変貌を遂げようとしています。その流れを受け、われわれ中小企業診断士として留意すべき点について考察したいと思います。

まず、AI等を活用し業務が効率化されることでの生産性向上があります。事務作業や現場の単純労働だけでなく、知的労働についてもその一部がAIの活用等によって代替され、結果として労働生産性が向上する可能性があります。さらに、クラウド活用や分散型の情報シ

ステム構築によってシステム投資が節約され、小資本での経営が実現できる可能性も高まっています。

また、ビッグデータ活用があります。設備稼働状況から、交通、気象、個人の健康状況等、様々な情報がデータ化され、それらをネットワークでつなぎ、これを解析・利用することでの新たな付加価値が創出されようとしています。

一方、金融機関では、多数の店舗や複



雑な決済ネットワークの構築や与信審査などに多額のコストが掛かっているため、経営基盤の弱い企業には高い金利を要求されていた企業でもフィンテックにより非常に低コストかつ迅速に金融サービスを受けることができるようになり、新たな事業展開も進むものと期待されています。

しかし、すべての財・サービスの生産活動において人間が必要なくなるとは考えにくく、人とのコミュニケーション自体に付加価値が生まれるようなサービスは必ず存在します。むしろ、第4次産業革命の進展により、単純なルーチンワークや過酷な肉体労働から解放され、人間にしかできない質の高い業務に労働移動が進むものと思われます。そこで言われているのが、働き方改革です。一層進展するICTを活かした効率的な働き方、テレワークの拡大や個人によるシェアリング・サービスの提供などに対応した働き方改革が重要となっています。

他方で、企業としては、たゆまぬイノベーションによって新たな財やサービ

スを創出し続けること、新技術に対応できるスキル向上を目指した能力開発も必要となります。大きく変化する技術の波に対し、一企業だけで対応することは困難であり、官民及び大学も含め、企業外部の能力開発の機会を拡充していくことが必要となってきます。当協会が進めている愛媛大学との連携事業もその視点での意義があります。

AIの進展で消滅していく資格が話題となっていますが、中小企業診断士は最後まで残っていく資格の一つと言われています。人とのコミュニケーションを進めていくコンサルティングは、法的な独占業務も無く、定型的な業務も無く、他の士業に比較して知名度も低かった中小企業診断士が多方面で注目されるようになり、評価も高まっています。愛媛県、松山市、中小企業支援機関からの依頼事項も増加しつつあり、われわれにとってフォローの風が吹いている今こそ、当協会の自立化に向け会員の一致団結が不可欠であり、皆様のご協力をお願い申し上げます。



日本経営管理協会黒澤賞論文で奨励賞を受賞して

副会長 山本 久美

今回、日本経営管理協会黒澤賞論文において「中小・小規模企業における働き方改革と労働生産性の関係性－従業員の現場意識と労働生産性の関係性について－」の内容で、奨励賞をいただくことができた。実は平成27年度にも同じく奨励賞をいただいております、その年の4月に母親が亡くなったばかりで父親が落ち込んでいる直後であったことが昨日のように思い出される。父親が非常に喜んでくれ少しばかり親孝行ができたと思ったものである。その父も平成28年の4月に亡くなり先日、両親の墓前に

報告にいつてきた。

最近、愛媛大学との連携を進める中で、講師における資格の一つとして大学側から論文執筆について指摘を受けている。論文は論理的思考を養う上でとても重要なものであり、これからの中小企業診断士には求められるスキルの一つになると考える。国立大学でのリカレント教育にも是非関与していきたいと考えており、これからの講師の資格要件の一つとし



て論文作成にトライしてほしい。

1 1 月にあるシンポジウムに向けての「中小企業診断士による経営革新支援事例に関する論文発表者募集」もその一つであり、多くの人々が挑戦してほしいと考えている。今、愛媛県中小企業診断士

協会の変革の時であり各関係団体からの要望も今までとは違った形で、要求項目が様変わりをしている。自分自身への挑戦として是非論文にトライしてほしい。



ひとつの区切り

今福 慈

この原稿の締め切りが7月31日。5年以上にわたり取り組んできたひとつの会社の事業承継が完了する日である。完了する、とは経営者が保有する全株式を譲渡し、新しい株主を迎える一旦の区切りで、会社は当然ながら今後も継続される。新株主には、対象会社の約10倍規模の同業企業と某政府系銀行が共同出資する法人を選択した。大事な従業員を託すには信頼できる最高のお相手であり、最良の縁結びができたことFAとしては自負している。私にとっても一つの区切りになるお仕事だったと思う。

平成14年に中小企業診断士を取得してから15年、取得当時在籍していた政府系金融機関時代も合わせると20年以上、気が付けば一貫して中小企業経営者と共に歩んできた。まさか、何となく取得したこの資格を今日まで活用することになるとは思ってもいかなかったし、極めて恵まれた環境で、中小企業経営者のお手伝いをさせて頂いてきたと思う。

正直、就業当時は中小企業に並々なら

ぬ関心があるというわけでもなかったのだが、金融機関に在籍し、多くの中小企業経営者と接していると、人材の活用に成長の活路を見出している経営者が多く、そういう意味で女性への偏見がほとんどないように思われた(当時、金融機関は雇用の男女均等を意識はしても、活用を男女均等にしている意識は希薄であると感じていた)。



若輩かつ女性である私に、真剣に会社のことを話して下さる社長が何人もいたことが、私を今日に導いたように思う。

今は税理士としての仕事が6割、診断士としての仕事が4割といったところだが、ある程度の年齢と経験を重ね、当時よりも経営者が、より自分に信頼を寄せてくれていると感じることが多くなった。顧問先のさらなる発展、そして冒頭のような経営者のハッピーリタイアのために、今後もその信頼に応えていきたいと、この区切りに改めて思う次第である。





診断士を通じての振り返りとこれからへの思い

絹笠 直樹

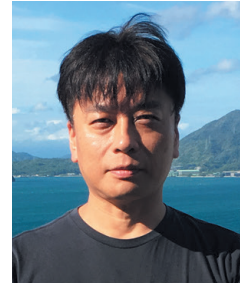
こんにちは！中小企業診断士の絹笠です。今年で14年目を迎えた企業内診断士です。四国流通業のお客様にシステムの企画提案～構築～保守まで幅広くサービスを提供させて頂いております。自身の役割は、PM（プロジェクトマネージャ）、シニア業種SE（業種ノウハウを保有し、上流工程を得意としたSE）です。「経営支援ができるITを強みとしたコンサルタント」を目指し、34歳のとき診断士試験に合格しました。振り返りとこれからへの思いについて寄稿させていただきます。

◆振り返り

今までの業務を通じて、コンサルタント（コンサル）に対し、いい意味だけでなく、悪い意味でも気づきを得ました。以下に、2点紹介させていただきます。

- ①コンサルは、知識一辺倒の理想論でなく、一貫性と具体性を備えた現実解を考える必要があります。以前、大手コンサルと連携しシステム構築をしたことがありました。コンサルが作成する資料は、「見た目重視の理想論」で、現場の業務や生身の人を見ておらず現実性に欠けており、対応に非常に苦労しました。後で聞くと、業種の強みがあるわけでも、IT系プロジェクトの経験が豊富なわけでもないコンサルだと分かりました。要は、経験を伴わない知識偏重型では意味がないということです。
- ②コンサルは、保有する知識を活かすことでお客様の心を動かすことができます。あることがきっかけで関係性が悪化したお客様がいました。わ

たしも関係性修復に尽力しましたが、突破口が見つかりません。そこで、お客様のターゲットや市場調査、競合調査、業種



トレンド調査、経営分析を行い、資料を提示したところ、社内に回覧していただけるほどの評価を頂き、関係性も好転しました。また、ある提案書に、経営分析の結果、中長期的な課題や具体策を含めたことがありました。経営目線の提案書に高い評価を頂き、受注を獲得することができました。要は、コンサル（＝診断士）の知識はお客様にとって非常に有用ということです。

◆これからへの思い

48歳になった現在も、「経営面の支援ができるITを強みとしたコンサルタント」という目標は変わっておりません。そのためには、経営的な視点からお客様を支援できる診断士の知識を今後も積極的に活用していきます。また、同時に、「強み（経験を伴わない耳学問ではなく、経験を通じて得られるスキル）」を形成する必要があります。自身としては、AIを中心としたITの知識を蓄積し、業種ノウハウやPM力を研鑽し、人材育成や組織運営についても実践していくことで、知見を蓄えていきたいと考えております。未熟ではありますが、未来を常に意識し、現在を修練の場と捉え前進していく考えです。



ご挨拶と事業内容の紹介

大西 正志

本年 4 月、愛媛県中小企業診断士協会に入会しました大西正志です。

愛媛県中小企業診断士協会のみなさんとは、愛媛銀行に在職中から交流をさせていただいておりました。このたびは、暖かく受け入れていただきありがとうございます。

これからは、地元中小企業への TQM (総合的品質管理) 導入・運営の支援を行い、社員と組織をいきいきさせるようなリーダー育成に取り組んでまいりたいと考えております。

TQM のことを知ったのは、入行後 20 年目に企画広報部経営管理課長になり、頭取より、TQC (当時は TQM を TQC と言っていた) の導入・運営をするように命じられた時です。三和銀行 (現在の三菱 UFJ 銀行) や三浦工業株式会社にも勉強に行き、その素晴らしい

仕組みに気づき、本格的に日本科学技術連盟の指導を受けて、銀行経営に導入・運営をしたところ、コア業務純益が約 3 倍になるという経験をする事ができました。



その後、人事教育部能力開発室長、支店長、営業統括部長、愛媛大学客員教授や中小企業の支援を行っていく中で、リーダーが正しいベクトル合わせをして、社員の持つ能力を引き出せば、社員満足、顧客満足が高まり、増客増益に繋がるとの信念を持つようになりました。

いきいきリーダー育成塾の事業内容として、次の 2 点を核にしたいと考えています。

1. 経営計画に沿ったオーダーメイド研修とアフターフォロー

リーダー育成 ⇒ 社員満足 ⇒ 顧客満足 ⇒ 増客増益 ⇒ 会社の発展・繁栄

<現状分析>

- ◆現場の観察
- ◆ヒアリング
- ◆アンケート調査
- ◆経営診断
- ◆課題の整理・絞り込み
- ◆社長と研修案調整

<研 修>

- ◆社員研修、幹部研修
- ◆研修内容の発表
- ◆リーダー候補の発見
- ◆PDCAの仕組み作り

<アフターフォロー>

- ◆リーダーのフォロー
- ◆経営計画見直しの支援
- ◆教育計画策定支援
- ◆社長診断実施の支援

2. 大学生の就職活動の支援

自分がしたいこと - 自分のできること = ギャップの確認
 ギャップを埋めるための支援 ⇒ 自信を持って社会人となる

<大学4年間>

- ◆自分の性格と能力の検証
 性格・人間力・体力・マナー
 マネジメントの基礎知識
 語学・ITの基礎知識
- ◆したいことをみつける支援
- ◆ギャップを埋めるための支援

<社会人>

- ◆自信を持って社会に出る
- ◆問題解決・課題達成能力
- ◆付加価値の高い仕事
- ◆社会の役に立つ人間
- ◆充実した人生

最後に趣味は坐禅と家庭菜園です。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



19年で浦島太郎になった私

小玉 和史

Uターンし19年ぶりにJRで松山に通う毎日に戻って早4か月(2019年7月時点)、ようやく愛媛での生活にも慣れてきた今日この頃です。高校卒業後、首都圏にて過ごした大学・大学院・社会人生活はとても充実したものでしたが、近年、Uターンするかどうか悩んでおりました。最後は、“やらない後悔”より“やった後悔”と大げさではございますが覚悟を決めて首都圏生活に別れを告げました。

19年ぶりに乗る通勤列車(19年前は通学列車でした)は、懐かしくとても楽しみにしておりました。当時の話を妻にすると、「もうあなたは学生じゃないのよ。愛媛に帰ってきただけで若返ったわけじゃないからね。」と指摘を受けてしまうほどでした。

この楽しみにしていた通勤列車、予讃線の伊予市駅から乗車し松山駅で降りるのですが、乗車初日はとても嬉しく思った反面、想像以上に19年で地元が変

化したように感じる事となりました。当時と比べて通勤列車の両数は減少しており、伊予市より南部から乗ってきた客数自体も少なくなっている

ように感じたのです(19年前の記憶は定かではございませんが)。

この19年でエミフルが出来たり松山市駅のデパートも大きく変わって屋上には観覧車が出来ていたり、にぎやかな街に変わっていたように思っていました。しかし、この19年で愛媛県の人口減少(あるいは高齢化等による年齢構成の変化)は確実に進んでいることを肌で直に感じさせられたわけです。

そこで今回は、愛媛県の人口について少しだけ調べてみました。私が愛媛を離れた2000年と直近(2019年)のデータを比較した結果を図1に示します。



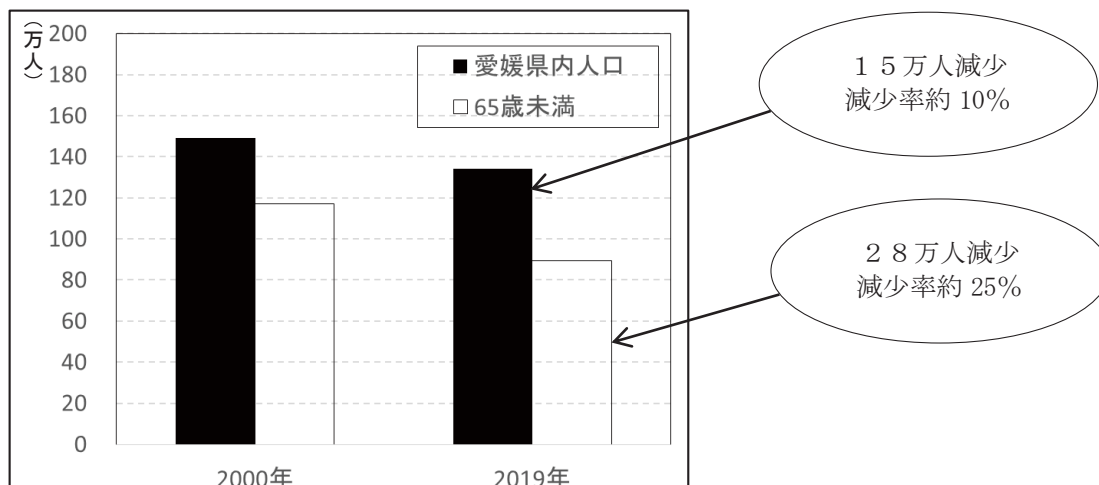


図 1. 愛媛県内人口の 2000 年と 2019 年の比較(総務省 国勢調査データを参考に作成)

単純に 2000 年の人口と 2019 年の人口を比較すると、15 万人の人口減であり減少率は約 10% でした。しかし私が伊予市駅で乗車したとき、あるいは松山駅で降りるまでの印象は、それ以上のものでした。そこで、朝の通勤通学列車に乗る可能性のある人の数を直接求めることは困難なので、データ入手が簡単な 65 歳未満の人口にのみ着目して比較してみました。すると 28 万人の人口減少であり減少率は約 25% となることが分かりました。それでも私の感じる列車内の空気からすると控えめな数字に思われます。おそらく私の住む伊予市より

も南方面は、松山中心部に比べていっそう少子高齢化・人口減少が進んでいるということなのでしょう。

今後の人口減少・超高齢化社会は避けられない問題でありどんな未来が待っているか少し不安な今日この頃ではございますが、このような地域こそ AI やロボット技術を活用するなどの工夫が求められるのではないかと思います。無力ではございますが地元のために何かしたいという思いで U ターンいたしましたので、皆様と一緒に地元の愛媛の発展に寄与できればと考えております。



お知らせ

■ 視察研修について

今年度（令和元年度）の企業視察研修旅行は 2 泊 3 日の日程で下記のとおり開催し、島根県中小企業診断協会とも懇親会を行う予定です。是非、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 令和元年 11 月 10 日（日）～ 12 日（火）
2. 行き先 山陰地方（鳥取・島根方面）
3. 視察先 境漁港見学、雲南市役所、おっちラボ

■令和元年度（後半）の行事予定

日 程	行 事 内 容
9 月 24 日(火) ～ 9 月 25 日(水)	愛媛大学特別講義
9 月 27 日(金)	四国ブロック会議（徳島県）
11 月 1 日(金)	「中小企業診断士の日」イベント（愛媛大学）
11 月 10 日(日) ～ 11 月 12 日(火)	視察研修旅行（山陰）
12 月 6 日(金)	会員研究会・忘年会

編集後記

「しんあい 2019 年秋号」発行にあたり、大変お忙しい中ご執筆いただきました皆様、誠にありがとうございます。

また、協会事務局、広報委員、発行に関わっていただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、令和元年も後半となり、1年ってなんて速いの！と感じるこの頃。私にとって、プライベートが自由な世界だとすれば、ビジネスは人々をハッピーにできる世界。私はこの2つの世界でバランスのとれた生活を送りたいと考えています。そのために健康ファーストと考えていますが、欲望に負けた不健康な自分が頻繁に現れて困っています。

最後に、いただいた原稿につきましては、できるだけ原文通りに掲載したいと思っておりますが、紙面や構成の都合で編集させていただく場合もございます。ご了承のほど、お願い申し上げます。

（広報委員長 西田元信）

